



No.65 役所はトランスフォーム（変容）できない TransformationではなくTransition

いまやどの企業も口を開けばDX(Digital Transformation)！
新聞広告やオンラインイベントもDXセミナーが大はやりです。
乗り遅れてはならじ！ うちもやらねば！！
何をやればいいのかよくわからないけれども、とにかくうちもやっていると言いたい！？？
RPA(Robotic Process Automation)とは違うよと言われてもよくわからないが・・・
ということで日本社会のデジタル変容はなかなか見えてきません。

日本は隣を見てやるかどうか決めるという行動原理なので、言葉だけが宙に浮いていて、何のために何をやるかは後から考えようという感じですね。企業や役所が経営(行政)の効率化や経費削減の文脈で考える限り、DXもワープロの導入とさして変わらないことになるでしょう。しかしデジタル化によって誰もがほぼ無限に近い大量データを格納し、一瞬で処理できるようになりました。企業にとっては自社のビジネス自体が変わってしまうのと同じように、役所の場合は国民とのインターフェースがデジタルになることで、行政サービスそのものががらりと変わります。

一方役所は今ある秩序を維持するミッションがあるので、稼働中のサービスを急に変えたりやめたりできません。インターフェースをデジタル化すると言ってもある日突然一斉に切り替えるというようなことはできないので、デジタルデバインドを克服して社会が変わるのを待ちながら少しずつ変えるしかない、というのが役所の現実でしょう。
でも本当にそれしかないのだろうか？ 世界は明らかにラディカルに変わっています。

将来の政府の在り方を考えるFuture Gov というイギリスの団体のイベントに、先週オンラインで参加しました。そのテーマが「Transition」これだ！と思いました。中央政府であれ地方政府であれ、今ある政府をラディカルに「変容」させるのは無理。旧体制の改革と並行して、新しいデジタルの入れ物をまず作り、そこに移行させるしかないのではないかと。
デジタルの世界にも新たな秩序とルールが必要です。そのもとで公的なデジタルサービスを提供するデジタルガバメントを作り、できることから住民サービスを移行させる。そのサービスを受ける住民が増えてくれば社会は変わる・・・

ドイツでも Creative Bureaucracy Festival というイベントがオンラインで開催されました。日本では官僚制とクリエイティブとはなかなか結びつきませんが、欧州ではデジタル時代に向かって官庁のドラスティックな改革をどう実現するか、議論が始まっています。

<https://www.wearefuturegov.com/>